

昭和三八年度史学研究会大会

一月一日(金)・二日(土)

第一日見学会「西京めぐり」は、大阪市立大学直木孝次郎助教授の懇切な解説のもとに、唐招提寺・薬師寺・西大寺・秋篠寺の順序で巡回した。唐招提寺・薬師寺では、平素は見学を許されていない講室内陣や、吉祥天女画像なども特に見学し、直木助教授の歴史的背景をふまえた解説に参会者一同傾聴した。なお帰途奈良博物館にて開催中の正倉院展を見学した。第二日総会および大会は、午後一時より京都大学楽友会館において開催した。総会は、宮崎市定理事長の挨拶について、織田武雄常任理事より会務および会計の報告が行なわれた。会開講演は、宮崎市定理事長、および東京大学教授飯塚浩二氏により、次の演題で行なわれた。

東洋の中世 宮崎 市定氏
アフリカ研究について(スライド使用) 飯塚 浩二氏

(なお阿氏の講演の内容は、近く論文として、本誌に掲載する予定である)

学界消息

読史会大会

一月三日(祝)午前九時〜午後五時

(於・京都大学法経第七教室)

水戸学派の藩政改革論

大和の油座について

吾妻鏡にみられる東西関係記事

任那日本府の行政制度

中世の度牒について

造籍・班田と大化改新詔

寛政異学の禁とその思想的背景

元興寺極楽坊本堂内陣の柱刻銘寄進文について

播磨国太山寺について

旗本領と地方の豪商

魏志倭人伝の正しい読み方について

芝原 拓自
脇田 晴子
楠瀬 勝
井上 秀雄
荻野三七彦
岸 俊男
石沢 澈
五来 重
東郷 松郎
日置弥三郎
牧 健二

東洋史談話会大会

一月三日(祝)午前九時〜午後五時

於・京都大学人文科学研究所

北魏三長制雜考 横山 裕男
均田制の成立をめぐる 堀 敏一
インド的思考と中国的思考 福永 光司
李悝の法経に関する一考察 守屋美都雄
コンタインシャ政權の西方関係 佐口 透
十月革命後、最初の中ソ交渉について 伊藤 秀一

清代における水利団体と政治権力 今堀 誠二

無為と因循 金谷 治

三国晋南北朝時代における華北農業の展開 天野元之助

モンゴル部族の初住地と始祖説話について 田村 実造

西洋史読書会第三一回大会

一月三日(祝)午前九時半〜午後五時半

於・京都大学楽友会館

ストラテギアの展開過程 合阪 学

ビタゴラスとヘラクレイトス 栗林 健

ヘレニズム後期のシリアのミトラ教について 小川 英雄

中世初期ドイツ村落研究の問題点

「ヤロスラフのグラリモタ」について 野崎 直治

イギリスにおける封建的所領の形成と自由農民 富沢 靈岸

ポリティック 高野 清

米國運河建設期における反独占

州有論 安武 秀岳

アメリカ革新主義運動の性格について 志邨 晃佑

ヨーロッパ統合の問題について 前川貞次郎

社会経済史学会 第三十二回大会

昭和三八年九月七日―九日 於、北海道大学

第一日

第一部 日本史・東洋史部会

1 明治前期における製絲金融 加藤 隆

―岐阜県・明知農明会社について―

2 一八八〇年代の資本家団体 三和 良一

―東京商工会を中心に―

3 幕末・開港前後における経済発展の段階

―綿作・綿業を中心として― 古島 敏雄

4 股・周時代の氏族制について 松丸 道夫

5 マックス・ウェーバーの『資本主義の

精神』説は日本史に適用し得るか

土屋 喬雄

石戸谷重郎

7 土族債券銀行の成立と変貌 藤井 光男

―前橋第三十九国立銀行の場合―

8 三重紡績会社の資金調達 村上 はつ

9 前橋第三十九国立銀行の場合―

10 前橋第三十九国立銀行の場合―

11 前橋第三十九国立銀行の場合―

12 前橋第三十九国立銀行の場合―

13 前橋第三十九国立銀行の場合―

14 前橋第三十九国立銀行の場合―

15 前橋第三十九国立銀行の場合―

16 前橋第三十九国立銀行の場合―

17 前橋第三十九国立銀行の場合―

18 前橋第三十九国立銀行の場合―

19 前橋第三十九国立銀行の場合―

20 前橋第三十九国立銀行の場合―

21 前橋第三十九国立銀行の場合―

22 前橋第三十九国立銀行の場合―

23 前橋第三十九国立銀行の場合―

24 前橋第三十九国立銀行の場合―

25 前橋第三十九国立銀行の場合―

26 前橋第三十九国立銀行の場合―

27 前橋第三十九国立銀行の場合―

28 前橋第三十九国立銀行の場合―

29 前橋第三十九国立銀行の場合―

30 前橋第三十九国立銀行の場合―

6 三重紡績会社の資金調達 村上 はつ

7 土族債券銀行の成立と変貌 藤井 光男

8 三重紡績会社の資金調達 村上 はつ

9 前橋第三十九国立銀行の場合―

10 前橋第三十九国立銀行の場合―

11 前橋第三十九国立銀行の場合―

12 前橋第三十九国立銀行の場合―

13 前橋第三十九国立銀行の場合―

14 前橋第三十九国立銀行の場合―

15 前橋第三十九国立銀行の場合―

16 前橋第三十九国立銀行の場合―

17 前橋第三十九国立銀行の場合―

18 前橋第三十九国立銀行の場合―

19 前橋第三十九国立銀行の場合―

20 前橋第三十九国立銀行の場合―

21 前橋第三十九国立銀行の場合―

22 前橋第三十九国立銀行の場合―

23 前橋第三十九国立銀行の場合―

24 前橋第三十九国立銀行の場合―

25 前橋第三十九国立銀行の場合―

26 前橋第三十九国立銀行の場合―

27 前橋第三十九国立銀行の場合―

28 前橋第三十九国立銀行の場合―

29 前橋第三十九国立銀行の場合―

30 前橋第三十九国立銀行の場合―

2 北海道の開拓政策 永井 秀夫

3 北海道における水産業の発達 田中 修

―栖原家と三井―

4 北海道における農業の発達 旗手 勲

―特に大農制について―

5 北海道における鉱業の発達 水野 五郎

―幌内炭坑・北炭を中心に―

6 北海道の産業につくした人々 高倉新一郎

第三日 見 学 札幌近郊農村視察

日本地理学会・人文地理学会一九六三年度秋

季合同大会

十月十九日～二十三日 於 名古屋大学

シンポジウム「大都市圏の地域構造」

〈都市地理〉問題提起

東京大都市圏の地域構造 清水馨八郎

大都市近郊の地域形成 山鹿 誠次

中京圏の地域構造 山口恵一郎

阪神圏における二・三の問題 高野 史男

大阪圏における二・三の問題 小林 博

東京大都市圏の地域構造 服部銈二郎

東京都市部の機能と構造 有末 武夫

地価分布による中心市街地の形態

都市の危険率 水野 元

今村 学郎

山口 和雄

1 はじめに

「日本資本主義の発達と北海道」

都市化の過程における鉄道交通網の

形成とその変質

青木 栄一

衛星工業都市における労働力

川崎 敏

都市域における水害危険性の増加について

金窪 敏知

〈経済地理Ⅰ〉問題提起

上野 福男

工場立地とその敷地・建築面積との

関係についての試論

傾斜地の都市化と山津波・崖崩れ災害

京葉地帯における農業地域の配置

白浜 兵三

大都市圏の工業の土地（利用の）

伊藤 喜栄

傾斜地の都市化と山津波・崖崩れ災害

東京を中心とする洋菜栽培について

春日 茂男

生産性について

藤岡謙二郎

名古屋とその周辺地域の気候

稲見 悦治

東京周辺の都市化と農業の兼業化

村本 達郎

〈歴史地理〉問題提起

明治大正期における清水市の都市圏と

その構造

浅井 辰郎

大都市圏内における兼業農家の組織化

松井 貞雄

人口集中過程よりみた中京圏の性格

岡田 鎮太

千里山ニュータウンの宅地造成と

水害の問題

大都会圏における農業的土地利用の

野原 敏雄

分散

水野 時二

大都市圏の水害論

石井 素介

工場進出と農業経営の変貌

藤本 利治

大阪・名古屋の木材業の明治以降

坪内 庄次

新興高冷蔬菜の産地形成と市場

加藤 武夫

―名古屋を中心として―

矢守 一彦

阿波用水と桑園の衰退

水稲生産力と土地所有との関係について

自由課題

青木千枝子

大都市圏における工業化の最近の動向

石田竜次郎

〈応用地理〉問題提起

京浜・中京・阪神地域の土地と水害

北海道における酪農地域の形成

安田 初雄

幸田清喜・沢田清・菊地一郎

井出 策夫

大阪平野の地盤沈下

中野 尊正

―二の問題

渡辺 操

京浜工業地帯の形成と地域分化

竹内 淳彦

大都市地域の地形分類と洪水

岡 義記

―名古屋市の地形と伊勢湾台風による

船橋 泰彦

中京工業の地域構造

栗原 光政

高潮・洪水を中心として―

大矢 雅彦

尾留川正平・山本正三

藤岡謙二郎

文男

土地改良その他による西濃輪中

白井 義彦

石田竜次郎

多田 文男

北海道における酪農地域の形成

北海道の土地利用開発に関する

安田 初雄

京浜工業地帯の生産構造

井出 策夫

大阪平野の地盤沈下

中野 尊正

―二の問題

渡辺 操

京浜工業地帯の形成と地域分化

竹内 淳彦

大都市地域の地形分類と洪水

岡 義記

―名古屋市の地形と伊勢湾台風による

船橋 泰彦

中京工業の地域構造

栗原 光政

高潮・洪水を中心として―

大矢 雅彦

尾留川正平・山本正三

藤岡謙二郎

文男

土地改良その他による西濃輪中

白井 義彦

石田竜次郎

多田 文男

北海道における酪農地域の形成

北海道の土地利用開発に関する

北海道の酪農地域の形成

安田 初雄

京浜工業地帯の生産構造

井出 策夫

大阪平野の地盤沈下

中野 尊正

―二の問題

渡辺 操

京浜工業地帯の形成と地域分化

竹内 淳彦

大都市地域の地形分類と洪水

岡 義記

―名古屋市の地形と伊勢湾台風による

船橋 泰彦

中京工業の地域構造

栗原 光政

高潮・洪水を中心として―

大矢 雅彦

尾留川正平・山本正三

藤岡謙二郎

文男

土地改良その他による西濃輪中

白井 義彦

石田竜次郎

多田 文男

北海道における酪農地域の形成

北海道の土地利用開発に関する

北海道の酪農地域の形成

安田 初雄

京浜工業地帯の生産構造

井出 策夫

大阪平野の地盤沈下

中野 尊正

―二の問題

渡辺 操

京浜工業地帯の形成と地域分化

竹内 淳彦

大都市地域の地形分類と洪水

岡 義記

―名古屋市の地形と伊勢湾台風による

船橋 泰彦

中京工業の地域構造

栗原 光政

高潮・洪水を中心として―

大矢 雅彦

尾留川正平・山本正三

藤岡謙二郎

文男

土地改良その他による西濃輪中

白井 義彦

石田竜次郎

多田 文男

北海道における酪農地域の形成

北海道の土地利用開発に関する

北海道の酪農地域の形成

安田 初雄

京浜工業地帯の生産構造

井出 策夫

大阪平野の地盤沈下

中野 尊正

―二の問題

渡辺 操

京浜工業地帯の形成と地域分化

竹内 淳彦

大都市地域の地形分類と洪水

岡 義記

―名古屋市の地形と伊勢湾台風による

船橋 泰彦

中京工業の地域構造

栗原 光政

高潮・洪水を中心として―

大矢 雅彦

尾留川正平・山本正三

藤岡謙二郎

文男

土地改良その他による西濃輪中

白井 義彦

石田竜次郎

多田 文男

北海道における酪農地域の形成

北海道の土地利用開発に関する

北海道の酪農地域の形成

安田 初雄

京浜工業地帯の生産構造

井出 策夫

大阪平野の地盤沈下

中野 尊正

―二の問題

渡辺 操

京浜工業地帯の形成と地域分化

竹内 淳彦

大都市地域の地形分類と洪水

岡 義記

―名古屋市の地形と伊勢湾台風による

船橋 泰彦

中京工業の地域構造

栗原 光政

高潮・洪水を中心として―

大矢 雅彦

尾留川正平・山本正三

藤岡謙二郎

文男

土地改良その他による西濃輪中

白井 義彦

石田竜次郎

多田 文男

北海道における酪農地域の形成

北海道の土地利用開発に関する

北海道の酪農地域の形成

安田 初雄

京浜工業地帯の生産構造

井出 策夫

大阪平野の地盤沈下

中野 尊正

―二の問題

渡辺 操

京浜工業地帯の形成と地域分化

竹内 淳彦

大都市地域の地形分類と洪水

岡 義記

―名古屋市の地形と伊勢湾台風による

船橋 泰彦

中京工業の地域構造

栗原 光政

高潮・洪水を中心として―

大矢 雅彦

尾留川正平・山本正三

藤岡謙二郎

文男

土地改良その他による西濃輪中

白井 義彦

石田竜次郎

多田 文男

北海道における酪農地域の形成

北海道の土地利用開発に関する

北海道の酪農地域の形成

安田 初雄

京浜工業地帯の生産構造

井出 策夫

大阪平野の地盤沈下

中野 尊正

―二の問題

渡辺 操

京浜工業地帯の形成と地域分化

竹内 淳彦

大都市地域の地形分類と洪水

岡 義記

―名古屋市の地形と伊勢湾台風による

船橋 泰彦

中京工業の地域構造

栗原 光政

高潮・洪水を中心として―

大矢 雅彦

尾留川正平・山本正三

藤岡謙二郎

文男

土地改良その他による西濃輪中

白井 義彦

石田竜次郎

多田 文男

北海道における酪農地域の形成

北海道の土地利用開発に関する

北海道の酪農地域の形成

安田 初雄

京浜工業地帯の生産構造

井出 策夫

大阪平野の地盤沈下

中野 尊正

―二の問題

渡辺 操

京浜工業地帯の形成と地域分化

竹内 淳彦

大都市地域の地形分類と洪水

岡 義記

―名古屋市の地形と伊勢湾台風による

船橋 泰彦

中京工業の地域構造

栗原 光政

高潮・洪水を中心として―

大矢 雅彦

尾留川正平・山本正三

藤岡謙二郎

文男

土地改良その他による西濃輪中

白井 義彦

石田竜次郎

多田 文男

北海道における酪農地域の形成

北海道の土地利用開発に関する

北海道の酪農地域の形成

安田 初雄

京浜工業地帯の生産構造

井出 策夫

大阪平野の地盤沈下

中野 尊正

―二の問題

渡辺 操

京浜工業地帯の形成と地域分化

竹内 淳彦

大都市地域の地形分類と洪水

岡 義記

―名古屋市の地形と伊勢湾台風による

船橋 泰彦

中京工業の地域構造

栗原 光政

高潮・洪水を中心として―

大矢 雅彦

尾留川正平・山本正三

藤岡謙二郎

文男

土地改良その他による西濃輪中

白井 義彦

石田竜次郎

多田 文男

北海道における酪農地域の形成

北海道の土地利用開発に関する

近世以降における桐生機業の地域形成

齊藤 叶吉

広域都市圏としての室蘭地域の地域

構造の検討 筒浦 明

中心商店街についての二・三の考察

—東京銀座と新宿の場合— 杉村 暢二

大都市内における繁華街の基本構造

松沢 光雄

伊勢志摩国立公園の観光の一考察

前田 和夫

木曾山脈南東山地農村の変容

三浦 宏

日本農家の高床式住家の形成過程と

その特性 佐藤甚次郎

谷平野の水害に伴なう移転並びに危険集落

—北上川および最上川流域の場合—

籠瀬 良明

沖繩の沿海生活 山岡 政喜

疾病の歴史地理学的研究 坂口 友一

—文献にあらわれた古代・中世の疾病について—

大久保武彦

地図図式の分類試案

その他地形・陸水を中心とする自然地理の諸

発表があり、二十一・二日は、大井川流域、

三河地域、伊勢湾北部臨海地域、輪中・中濃

地域、中仙道・近江地域へ五班に分れてエタ

スカーションが行われた。

廣島史学研究会 大会

昭和三八年一〇月二六・二七日

於 廣島大学文学部・教育学部

第一日

〈日本史部会〉

神武天皇紀云「自天祖降跡以逮于今、一百

七十九万二千四百七十余歳」について

水野 惟之

十・十一世紀における国図と土地所有権

坂本 賞三

大友氏の奉行人について

外山 幹夫

伊予吉田藩の知行制度について

青野 春水

山片蟠桃の著述について

末中 哲夫

幕末期における但馬生野領の

豪農経営について

前島 雅光

九州莊園研究の動向

工藤 敬一

前田三遊と部落解放の運動

天野 卓郎

〈東洋史部会〉

宋代、土地所有的基本的問題 河原 由郎

「島夷志略」所載の諸国は現代の

いずれの地に当たるか 丹羽友三郎

蒙古史研究のための書誌について

田山 茂

七夕祭の起源について

大西 正男

西南異方志と南中八郡志

杉本直治郎

唐代における塞外諸民族の

中国内住について

伊瀬仙太郎

〈西洋史部会〉

古代末期のローマ社会について

吉田 宣興

アンシアン・レジームにおける借地小作農

の諸問題 —十七・十八世紀のブルゴーニ

ユ地方を中心として—

志垣 寿夫

十八世紀イギリス政党論

鶴田 正治

B・ディズレーリとイギリス保守党

—第二次選挙法改正によせて—

村岡 健次

近代ドイツ歴史思想の問題性とマイネッケ

肥田 正巳

〈地理部会〉

河瀬 明雄

北陸地方における工業地域の発展と性格

村上 誠

最近の日本における広域都市と

北川 健次

広域中心都市の発展

城下町徳島の一研究

服部 昌之

糸里地割の方位に関する問題点

水野 時二

児島七区干拓地における集落計画

小笠原璋夫

東南アジアと国家形成

—歴史・地理類型的把握の試み—

—考古・民俗部会〉

植物ムロノキにまつわる考古民俗的資料

—歴史・地理類型的把握の試み—

—考古・民俗部会〉

備後五駅の一抗の駅址について

—歴史・地理類型的把握の試み—

—考古・民俗部会〉

芸北の稲作行事

—歴史・地理類型的把握の試み—

—考古・民俗部会〉

甲山地方の集落と神社

—歴史・地理類型的把握の試み—

森分 孝治

カラチ・プランに基づくアジアに於ける

教育発展計画とその社会的・経済的意味

近藤 春生

社会科成立期における歴史教育の比較考察

—日本と西ドイツの場合—

—倫理・社会〉における人生観・世界観

のうち〃日本の考え方〃について

—倫理・社会〉における宗教の

とり扱いについて

—世界史との関連を中心とした倫理・社会

の指導について —東洋の考え方の一項

目をとりあげて—

—歴史教育におけるエクセムブラリッシュ

方式について

—教育地図学のための一考察—

—日本人の国際的意識(二)

—屋号にあらわれた外国意識—

社会科教育不振の原因とその対策

—公開講演〉

—社会科教育部会〉

アメリカ中等学校の世界史教育の

理論と現状 —構成法を中心として—

—公開講演〉

—社会科教育部会〉

中国古代の主従関係

第二日

シンポジウム「封建社会における国家権力」

(報告)

封建支配と村落共同体

封建権力の基礎構造

国家権力と農奴制

領国制の構造的特質

第三日

見学 宮島・岩園など

上智大学史学会

十月二十六・七日 於 上智会館

1 対ドイツ政策にみられるイノセント

三世の教皇権の一性格

2 ミルトンのイタリア紀行について

3 明末破邪論にみられるキリスト観

4 アポニイ伯日記

5 森有礼の宗教観

6 F・オコンナーとアイルランド

7 ヨゼフ主義の没落

—下村 彦一

—下村 彦一

—下村 彦一

—下村 彦一

—下村 彦一

貝塚 茂樹

—報告)

—報告)

—報告)

—報告)

—報告)

—報告)

—報告)

—報告)

—報告)

—報告)

—報告)

—報告)

—報告)

—報告)

—報告)

—報告)

—報告)

—報告)

—報告)

—報告)

—報告)

—報告)

—報告)

—報告)

8 リチャード一世の評価をめぐって

渡部 昇一

第三日 見学会

知多半島の常滑古窯址および常滑陶

島田 清

9 中世末期フランスの世俗思想
— レジストの諸著作をめぐって —

橋口 倫介

研究発表題目

1 霧ヶ峰雪不知の石器

藤森 栄一

10 平安時代における延臣の名前の
呼び方について

吉村 茂樹

11 天正十四年の大坂城における
二つの会見

シュワデー師

3 帝釈馬渡岩陰遺跡の第二次調査
松崎寿和・杉原莊介・潮見 浩・藤田 等

4 島原半島・百花台遺跡の調査
和島誠一・麻生 優

17 市原市姉崎山王山古墳の調査
大場磐雄・甘粕 健

18 南総町江子田瓢箪塚古墳の調査
武田宗久・中村恵次

〈公開講演〉(二十六日)

エグノー戦争と Secretaire d'Etat

の役割り

磯見 辰典

5 愛知県南知多町山田平遺跡の調査
杉崎 章・磯部幸男

6 大宮市奈良瀬戸遺跡発掘概報
柳田 敏司

日本考古学協会 昭和三八年度大会

一〇月二六日—二八日 於 名古屋大学

第一日 古窯址発掘品の解説と資料展示

研究発表表①

研究発表表②

第二日 研究発表表②

公開講演

考古学研究に対する化学の応用

エスキモの祖先

映画

フランスカとエスキモ

山崎 一雄

杉原 莊介

杉原 莊介

芸研究所

研究発表題目

1 霧ヶ峰雪不知の石器

2 帝釈寄倉岩陰遺跡の第一次調査
松崎寿和・杉原莊介・大塚初重・戸沢充則

3 帝釈馬渡岩陰遺跡の第二次調査
松崎寿和・杉原莊介・潮見 浩・藤田 等

4 島原半島・百花台遺跡の調査
和島誠一・麻生 優

5 愛知県南知多町山田平遺跡の調査
杉崎 章・磯部幸男

6 大宮市奈良瀬戸遺跡発掘概報
柳田 敏司

7 宮崎県田野町青木遺跡の調査
鈴木 重治

8 石器の信仰
桑山 龍進

9 大和鴨都波弥生式遺跡の調査
綱干 善教

10 駿河湾地方の中期弥生文化
小野 真一

11 七面の前漢鏡を出した飯塚市立岩
甕棺遺跡調査概報
児島隆人・森貞次郎

12 静岡県浜北市の特殊遺構
下津谷達男

13 播磨町大中弥生式住居址について
藤田 等

14 島根県八束郡鹿島町吉浦砂丘遺跡
金関丈夫・藤田 等

15 奈良県勢野茶臼山古墳について
伊達 宗泰

16 香川県大川郡古枝前方後円墳調査概報
六車 恵一

17 市原市姉崎山王山古墳の調査
大場磐雄・甘粕 健

18 南総町江子田瓢箪塚古墳の調査
武田宗久・中村恵次

19 近畿地方における特異な後期古墳の調査
水野正好・田代克己・岡村 穠

20 埴輪筒形棺の研究
三木 文雄

21 北海道鶴川町の盛土墳墓
大場利夫・扇谷昌康

22 駿河日吉院寺址の発掘調査結果から考え
られる伽藍配置の推移状況
輕部 慈恩

23 上野国府跡調査の中間報告
尾崎喜左雄・松島栄治

24 栃木県佐野市唐沢ゴルフ場ハニワ窯址
大川 清

25 京都市幡枝の飛鳥時代瓦陶兼業窯址
横山浩一・吉本堯俊

26 須恵器の製作所跡について 坂詰 秀一

27 昭和37・38年度平城宮跡発掘調査概要

河原 純之

28 笠岡市大飛鳥遺跡 鎌木義昌・間藤忠彦

29 石川県鹿島郡鳥屋町春木第3号窯の調査

高堀勝喜・浜岡賢太郎・橋本澄夫・吉岡 康暢

30 興福寺旧境内出土の施釉陶器 岡田 茂弘

31 珠洲焼 浜岡賢太郎・橋本澄夫

32 福山市草戸遺跡出土の日本陶磁の編年

村上 正名

33 和泉県尾山経塚群調査概報

石田茂作・秋山進午

34 三重県伊勢市朝熊山第二次調査報告

稲垣 晋也

委員会だより

◇ 一九六四年第一号、本来ならば一月にお願いいたすべきのところ、またまた春四月を迎えてしまいました。昨年一年、刊行のおくれを何とかとにかえそうと努力したのでありますが、現下の印刷事情の前には、委員の努力はあまりに無力であるといわざるを得ません。刊行のおくれの結果、寄稿者各位、ならびに読者各位に多大のご迷惑をおかけ致しておりますことをおわび致します。

◇ ところで、昭和三九年度をむかえ、本誌の印刷代の契約の交渉をすすめておりますが、定期刊行を維持するためには、大幅な値上がりは不可避の事情にあります。昭和三八年度までは、毎年の印刷代値上がりは、文部省の刊行助成金と、本会運営のいわゆる合理化、つまり人件費その他を切りつめることで吸収して参りましたが、もはやそれも限界にあり、印刷代の値上がり分は、会費を値上げするか、ないし頁数を減らすか、あるいは双方を同時に実施するか、何れかを選ばざるを得ません。何れ理事会の検討を経まして決定

いたしますが、こうした事情を前もってお含み願えますれば幸甚であります。

◇ 毎度のことではありますが、論文・ノート・書評など、各位のご研鑽の成果のご寄稿をお待ちいたします。原稿は、「編集委員会」宛にお送り下さい。なお又、会費赤字の方には度々催促いたしておりますが、よろしくお願いいたします。

訂正

四六巻六号所載 秋山進午「武梁祠堂復元の再検討」付録図版(口絵ア1) 図版1のうち、「右 武梁第一石(芸大木)」と「左 武梁第二石」の写真は、左右いれ違っておりました。讀んで訂正いたします。

一九六三年二月二五日印刷
一九六四年一月一日発行 定価二〇〇円

史 林 (第四七巻第一号)

発行所 京都市左京区吉田本町
京都大学文学部内

史 学 研 究 会

理事 長 宮崎 市 定
振替 京都五一五五番
京都市下京区西七条御所ノ内中町五〇
印刷所 中村印刷株式会社